

平間小学校マネジメントコンセプト

学校の教育目標
・健康なからだと豊かな心をもつ子 ・課題をもって進んで行動する子
○健やかな体の育成 ○豊かな心の育成 ○確かな学力の育成

児童のめあて
元気・・・明るく丈夫な子 本気・・・ねらいをもって学ぶ子 勇気・・・ものごとに挑戦する子 根気・・・ねばり強くやりぬく子

すべての平間小の子が、どこにいても楽しく生き生きとすごすための今年度の重点

SDGsの視点での生活科・総合的な学習の時間の研究：資質能力育成のため主体的・対話的で深い学びを大切に授業を行う。

コミュニティ・スクール：子どもの学習がより豊かなものになるよう保護者や地域の方々と連携し開かれた学校づくりをめざす。

ユネスコスクールチャレンジ：経営方針・教育課程・指導計画・学校評価等を点検してESDを推進する。

活動の重点

特色ある学校づくり
○SDGs・ESDの視点を生かした体験学習の推進・SDGsフェス ○体力づくりの充実

これからの時代に必要な能力育成
○キャリア在り方生き方教育推進 ○ESDの推進 ○英語活動の充実

日常的な課題への迅速対応
○安全指導の充実 ○基礎基本の定着をめざす学習指導の充実

開かれた学校づくり
○コミュニティ・スクールの推進 ○多様なステークホルダーと連携 ○学校評価の充実

児童理解・人権尊重教育
○特別支援教育の充実 ○児童支援コーディネーターを中心に児童指導・人権尊重教育を推進

教職員の資質の向上
○指導力、授業力の向上 ○コミュニケーション能力の向上 ○学校のチーム力の向上

重点項目に連動し、**見通しとつながり**をもった各学年・学級での具体的な目標と取組

～平間プライドをもって自立と共生をめざすために～

平間プライドとは、まず自分をつくり（学びや体験で自信をもち、学力をつけたり感性を磨いたりする⇒自分を
知り、自立する）、そして、わたしたちのまち川崎・平間・平間小学校をみんなで作り上げていく（地域や学校の良
いところを探し、地域や学校に愛着と誇りをもつ⇒周囲の人たちとつながり、共生する）ということである。

～すべての平間小の子が、どこにいても楽しく生き生きとすごすために～

SDGsの視点での生活科・総合的な学習の時間の研究

本校は、川崎市研究推進校（生活科・総合的な学習の時間の研究2年目）である。そこで、**カリキュラム・マネジ
メント**（学校教育目標を実現するために、どのような教育課程を編成し、どのようにそれを実施・評価し改善してい
くか）と、**主体的・対話的で深い学び**（見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげ
る・他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める・習得活用探究という学習プロセスの中
で、問題発見解決をめざす）の実現に向け、**つながりと見通しをもった教科横断的な授業改善**を推進する。

さらに、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓くための**持続可能な社会
の創り手の育成**（学習指導要領前文において掲げられている）という面からSDGsの視点を加えることで、単元
づくり・教材づくりが充実するカリキュラムデザインを考える。SDGsは、子どもの心の発達・自己肯定感の醸成
に寄与することや（⇒シビックプライドの醸成）、主体的・協働的に学ぶ力を高めること（⇒主体的・対話的で深い
学び）等、現場が抱える教育の諸問題の解決に大きく役立っている。

SDGs（Sustainable Development Goals）

2030年までに先進国も途上国も、国も企業もNPOも個人も協力して、より良い未来をつくろうという17
の持続可能な開発目標で、誰一人取り残さないことを大切にしている。

コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールは、**学校運営協議会**（保護者・地域住民・学識経験者・学校運営に資する活動を行う者・
教職員16名以下で構成）を設置し、学校と家庭や地域が協働して学校と地域をより良くしていく仕組である。学び
や体験活動の充実・自己肯定感と思いやりの心と地域を大切にす気持ちの成長・地域や保護者の理解と協力を得
た学校運営の実現・教職員に必要なコミュニケーション能力と交渉力の向上等が見込まれる。

平間小学校では、**多摩川や平間銀座商店街**を核とした生活科・総合的な学習の時間を行おうと計画している。コ
ミュニティ・スクールを教育課程の中に位置づけて行うことで、地域人材を活用した教育活動が実践できる。その
ためには、生活・総合・理科・社会等のカリキュラムの見直しが必要になってくる。経験年数の少ない教員や子ども
が1年間あるいは6年間の見通しをもてるカリキュラム作りである。コミュニティ・スクールの研究ではなく、コ
ミュニティ・スクールが研究をサポートするととらえたい。また、学校や地域・保護者の方々が連携・協働して地域
に根差した特色ある教育活動に取り組むことでSDGsの17の目標の達成に貢献することにつながる。この取組

は、保護者や地域の方々のご協力はもちろん、平間中学校や川崎工科高等学校との連携、社会科・理科・生活科・総合的な学習の時間教育研究会及びエネルギー環境子どもワークショップ in 川崎実行委員会の協力を得て行いたいと考えている。さらに、中本賢多摩川塾塾長（俳優・元教育委員）や岩手県山田町の箱山智美教育次長（震災時に大槌町指導主事）等の方々に、コミュニティ・スクールだけでなく授業や児童支援のアドバイザーとしてご協力いただいている。

ユネスコスクールチャレンジ

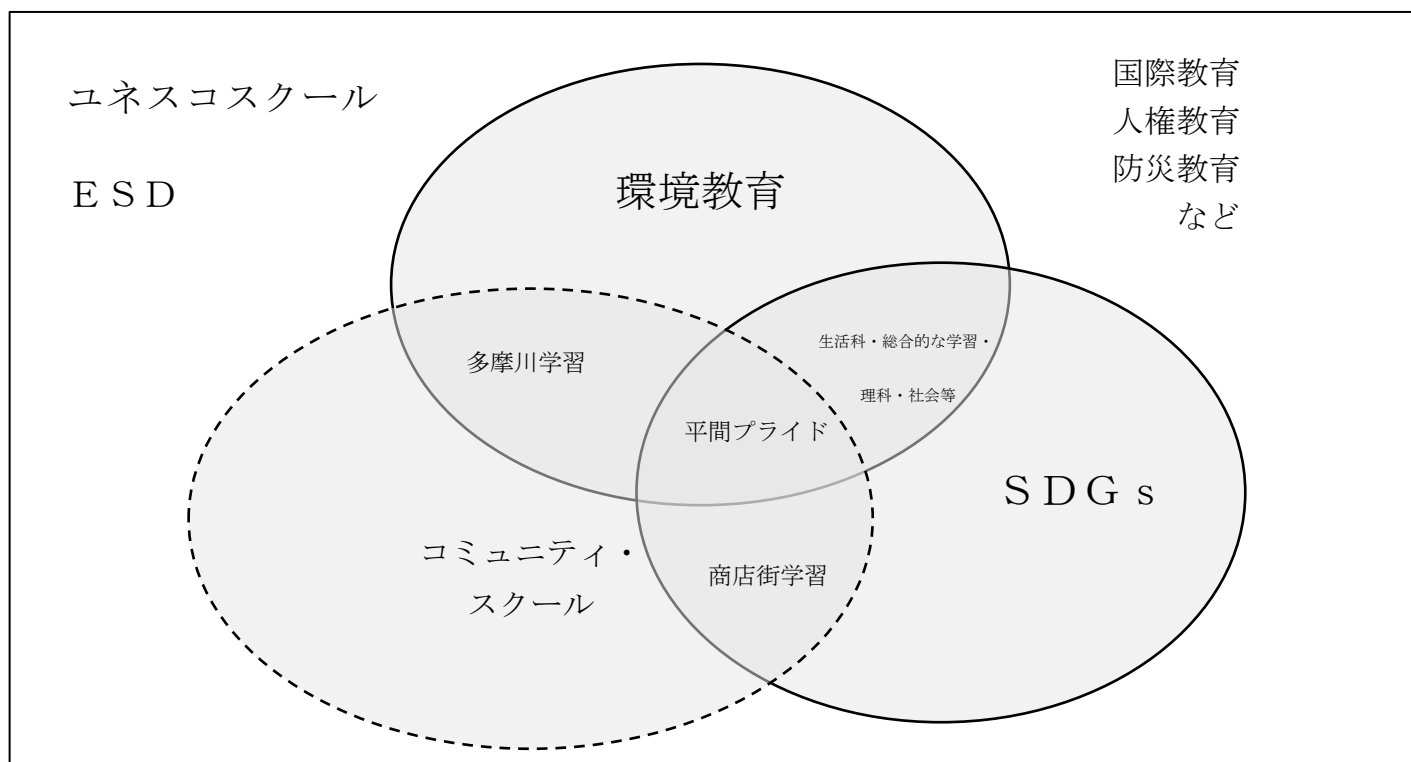
今年度、本校はユネスコスクールに申請している。ユネスコスクールとは、ユネスコの理念や目的を学校のあらゆる面に位置づけ、児童の心の中に平和のとりでを築くことを目指す、ユネスコが認定する学校の国際ネットワークである。文部科学省では、ESDの推進拠点として位置づけている。

ESDの推進及びユネスコスクールの活動を通じて育てたい資質や能力は、学習指導要領の**育成すべき資質能力**の三つの柱に共通するところが多い。

- ・ **知識・技能**（何を理解しているか、何ができるか）⇒環境や社会の仕組みを理解する。学び方を身につける。
- ・ **思考力・判断力・表現力**（理解していること・できることをどう使うか）⇒課題をつかんで判断し解決する。価値を見出して考えを伝える。
- ・ **学びに向かう力・人間性**（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）⇒人や地域に関心をもって意欲的に関わる。協力してより良い社会を創ろうとする。

ESD (Education for Sustainable Development)

環境教育・国際理解教育・人権教育等、様々な問題を主体的に捉え身近なところから取り組む、持続可能な社会を実現するための教育で、つながりを大切にしている。



↑
コミュニティ・スクールを教育課程の中に移動させる